

国語の平均点は119.22点でした。古典文法から5点分の識別問題が出題されています。

第3問 問2 5点 「給心」四段活用・尊敬語と、下二段活用・謙譲語の識別に 正答⑤

### 第3問

次の文章は『夢の通ひ路物語』の一節である。男君と女君は、人目を忍んで逢う仲であった。やがて、女君は男君の子を身ごもったが、帝に召されて女御となり、男児を出産した。生まれた子は皇子(本文では「御子」)として披露され、女君は秘密を抱えておののきつつも、男君のことを思い続けている。その子を自分の子と確信する男君は人知れず苦悩しながら宮仕えし、二人の仲介役である清さだと右近も心を痛めている。以下の文章は、それに続くものである。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 50)

かたみに恋しう思し添ふことさまさまなれど、夢ならで通ひぬべき身ならねば、現の頼め絶えぬる心憂さのみ思しつづけ、大空をのみうち眺めつつ、もの心細く思しわたりけり。男の御心には、まして恨めしう、アあぢきなき嘆きに添へて、御子の御気配もいとつつましく、鏡の影もをさをさ覚ゆれば、いよいよ「イあきらめてしがな」と思しわたれど、ありしやうに語らひ人さへ聞こえねば、「人わろく、今さらかかづらひ、をこなるものに思ひまどはれむか」と心置かれて、清さだにだにも御心とけてものたまはず、いとどしき御物思ひをぞし給ひける。

こなたにも御心に絶えず思し嘆けど、何かは漏らし給はむ。御宿直などうちしきり、おのづから御前がちにて、ウ御ころざしのになきさまになりまさるも、よに心憂く、恐ろしう、人知れず悩ましう思して、いささか御局に下り給へり。人少なう、しめやかにながめ給へる夕暮れに、右近、御側に参りて、御かしらなど参るついで、かの御事をほのかに聞こえ奉る。

「この程見奉りしに、御方々思しわづらふもむべに ア侍り。げに痩せ瘦せとならせ給ひ、こよなく御色のさ青に見奉り候ひぬ。清さだも、久しううちおこたり侍りしを、いかに思しとぢめけむと、日頃いぶかしう、恐ろしう思ひ給へられしに、なほ忍びはて給はぬにや、昨日文おこせし中に、かかるものなむ侍りける。『まことに、うち悩み給ふこと、日数へて言ふ甲斐なく、見奉るも心苦しう。東宮のいとかなしうまつはさせ給へば、とけても籠らせ ハ給はぬを、この頃こそ、えうちつづきても参り給はで、ひとへに悩みまさらせ給へ』と侍りし」

とて、御消息取<sup>と</sup>出<sup>で</sup>たれど、なかなか心憂く、そら恐ろしきに、

「いかで、かくは言ふにかあらむ」

とて、泣き給ひぬ。

「こたびは、とちめにも侍らむ。御覽せむらむは、罪深きことにこそ思ほさめ」

とて、うち泣きて、

「昔ながらの御ありさまならましかば、かくひき違<sup>たが</sup>ひ、いつこにも苦しき御心の添<sup>た</sup>ふべきや」

と、忍びても聞こゆれば、**X** いとど恥づかしう、げに悲しくて、振り捨てやらで御覽ず。

**A** 「さりととも頼めし甲斐もなきあとに世のつねならぬながめだにせよ

<sup>(注8)</sup> 雲居のよそに見奉り、<sup>(注9)</sup> さるものの音調べし夕べより、心地も乱れ、悩ましう思ひ、給へしに、ほどなく魂の憂き身を捨

てて、君があたり迷ひ出<sup>い</sup>でなば、結びとめ給へかし。惜しけくあらぬ命も、まだ絶えはてねば」

など、あはれに、つねよりはいとど見所ありて書きすさみ給ふを御覽するに、来<sup>き</sup>し方行く先みなかきくれて、御袖いたう濡<sup>ぬ</sup>らし給ふ。うち臥<sup>ふ</sup>し給へるを、見奉るもいとほしう、「いかなりし世の御契りにや」と、思ひ嘆くめり。

「人目なき程に、あはれ、御返しを」

と聞こゆれば、御心も慌<sup>あわ</sup>しくて、

**B** 「思はずも隔てしほどを嘆きてはもろともにこそ消えもはてなめ

遅るべうは」

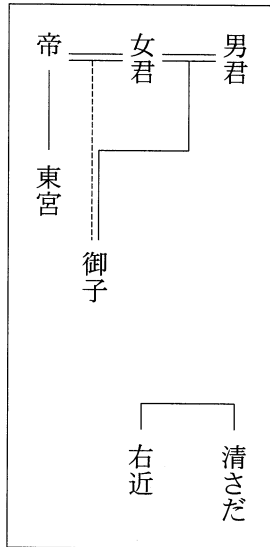
とばかり、書かせ給ひても、え引き結び給はで、深く思し惑ひて泣き入り給ふ。「かやうにこと少なく、節<sup>ふ</sup>なきものから、いと

どあはれにもいとほしうも御覽せむ」と、**Y** 方々<sup>かたがた</sup>思ひやるにも、悲しう見奉りぬ。

(注)

- 1 鏡の影もをさをさ覚ゆれば——鏡に映った男君自身の顔も御子の顔にそっくりなので、ということ。
- 2 語らひ人——相談相手となる人。ここでは女君の侍女の右近を指す。
- 3 清さだ——男君の腹心の従者。右近とはきょうだい。
- 4 御宿直などうちしきり——女君が帝の寢所にたびたび召されて、ということ。
- 5 御方々——男君の両親。
- 6 いかにも思しとちめけむ——どのようにあきらめなされたのだろうか、ということ。
- 7 東宮——帝の子。
- 8 雲居のよそに見奉り——女君が入内して男君の手の届かないところに行ってしまった、ということ。
- 9 さるものの音調べし夕べ——男君はかつて帝と女君の御前で、御簾を隔てて笛を披露したことがあった。そのときのことを指す。

人物関係図 (-----は表向きの親子関係)



問2 波線部 a、b、c の敬語の説明の組合せとして正しいものを、次の ①、②、③、④、⑤ のうちから一つ選べ。 解答番号は

24

①

a …… 右近から女君への敬意を示す丁寧語

b …… 御方々から男君への敬意を示す尊敬語

c …… 男君から女君への敬意を示す謙讓語

a …… 右近から女君への敬意を示す丁寧語

b …… 御方々から男君への敬意を示す尊敬語

c …… 男君から女君への敬意を示す尊敬語

②

a …… 右近から男君への敬意を示す謙讓語

b …… 御方々から男君への敬意を示す尊敬語

c …… 男君から女君への敬意を示す謙讓語

③

a …… 右近から男君への敬意を示す謙讓語

b …… 清さだから男君への敬意を示す尊敬語

c …… 男君から女君への敬意を示す尊敬語

④

a …… 右近から女君への敬意を示す丁寧語

b …… 清さだから男君への敬意を示す尊敬語

c …… 男君から女君への敬意を示す謙讓語

⑤

# 2015年センター試験 国語古典文法

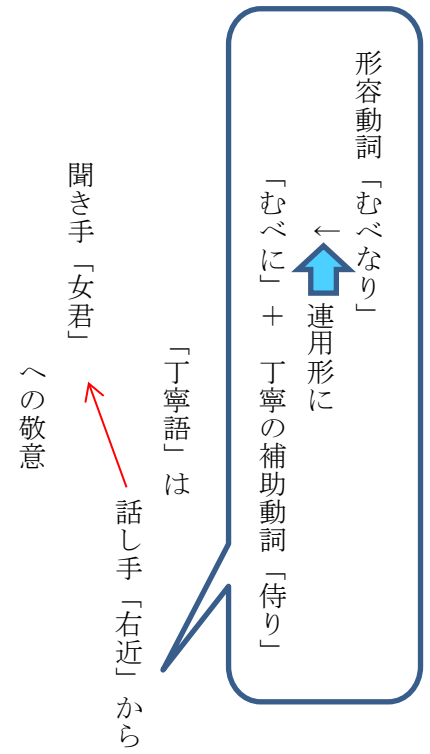
国語の平均点は119.22点でした。古典文法から5点分の識別問題が出題されています。

第3問 問2 5点 「給ふ」四段活用・尊敬語と、下二段活用・謙讓語の識別に 正答⑤

a むべに侍り。

な れ	な れ	な る	な む り	む べ に り	な ら	動詞 形容詞 形容動詞
命令	已然	連体	終止	連用	然	
れ	れ	る	り	り	ら	動詞 形容詞 形容動詞
命令	已然	連体	終止	連用	未然	

「侍り」補助動詞丁寧語  
右近の会話・聞き手の女君への敬意

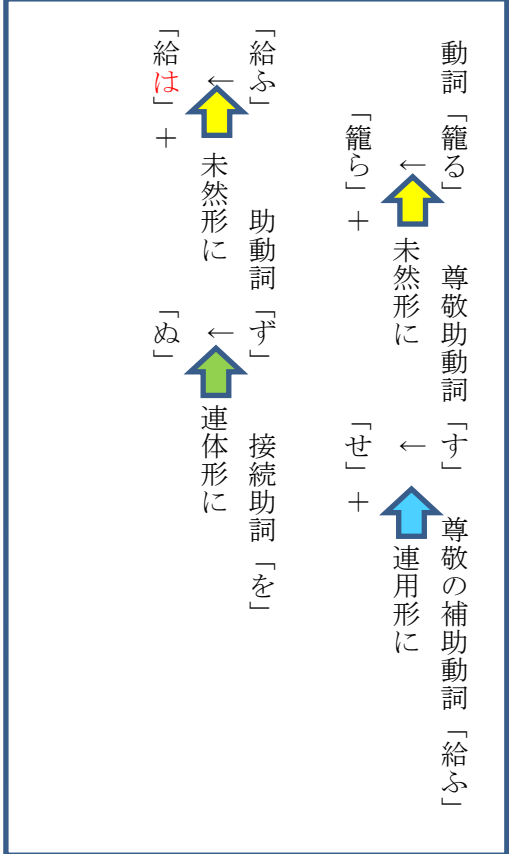


**b** 籠らせ給はぬを、

れ	る	籠	り	ら	籠	ら	ぬ	ず	り	ら	ぬ	ず
已然	連体	終止	連用	未然	未然	未然	連用	未然	未然	未然	未然	未然
せよ	すれ	する	す	せ	せ	せ	せ	せ	せ	せ	せ	せ
命令	已然	連体	終止	連用	未然	未然	連用	未然	未然	未然	未然	未然
へ	ふ	給ふ	む	は	は	は	は	は	は	は	は	は
已然	連体	終止	連用	未然	未然	未然	連用	未然	未然	未然	未然	未然
ぼども	か	さへ	すら	だに	もの	を	を	を	を	を	を	を
名詞	助詞	助詞	助詞	助詞	助詞	助詞	助詞	助詞	助詞	助詞	助詞	助詞

「給は」補助動詞四段活用未然形尊敬語

清さだの手紙・男君への敬意



『男君』への敬意

書き手『清さだ』から

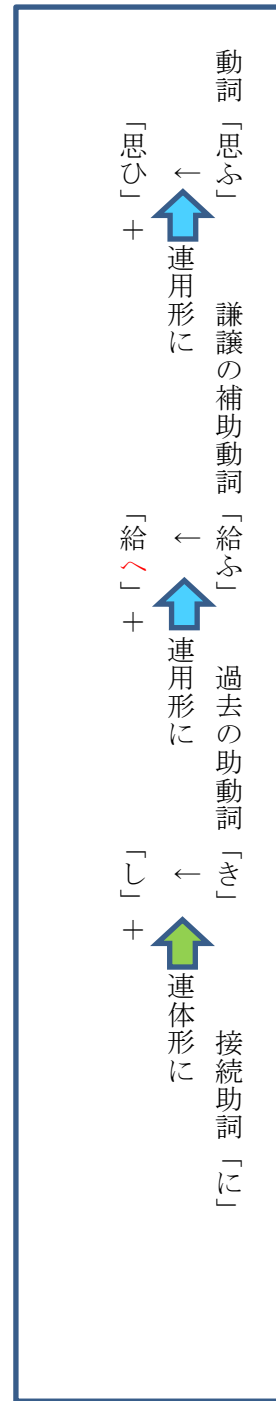
右近の会話「ふみおこせし中、『男君の様子を伝える清さだの手紙』と侍りし」とあるので、手紙の書き手は『清さだ』  
男君の動作を直接尊敬している。

籠もらせ  
「給は」四段活用「尊敬語」

**思ひ給へしに、**

へ	へ	ふ	思ふ	ひ	ま	動詞・形容詞 形容動詞
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
〇	ふ	る	給ふ	へ	へ	動詞・形容詞 形容動詞
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
		〇	しか	し	き	動詞・形容詞 形容動詞
		命令	已然	連体	終止	
そ	ば	ども		に		連体形 終止形 終止形 終止形

「給へ」補助動詞下二段活用連用形謙讓語  
男君の手紙、読み手の女君への敬意



「給へ」下二段活用連用形「謙讓語」

読み手「女君」への敬意

間接

書き手「男君」から

男君の手紙（私が）悩ましく思い申し上げていた、

自分の動作に謙讓語を加え、

思い申し上げていた女君に対して

間接的に敬意をあらわす。

謙讓語の「給ふ」は、

「思ふ」「見る」「聞く」「知る」の下に多くつく。